

# ムチムチ幼馴染が 夏休みに寝取られた話



ムチムチ巨乳の幼馴染が  
突然現れたチャラ男にすべて奪われてしまう……

僕の名前はコウスケ。

「ようコウスケ、おはようっ！今日もあちーな！」

彼女はリオ。

幼い頃から一緒に遊んだり、ときには喧嘩したりする、  
いわゆる幼馴染ってやつだ。

「今日も放課後どっか遊び行くか？また男同士の友情深めよーぜ！」

リオは変わり者で、小さな頃から男として育てられたせいで、  
自分のことを男だと思いがっでるらしい。



そしてリオはなぜかいつもスパッツを履いている。  
その理由を聞いてみたが……



「オレは男なんだ！スカートなんか履けるか！」

というところらしい。  
リオはいつもこうやって男だと言い張り、男になりきっていた。

僕もリオの気持ちを尊重して男として、扱ってるが

ムチムチに育った身体を見るたびに、女だと意識してしまい……

僕は、いつしかリオに恋心を抱くようになっていた。

自分を男だと言い張って、意地になってしまつてくるも、それはそれで可愛い。

ぷんぷん

ムチムチ

ムチムチ



「なあ、今日も一緒に帰ろうぜ」

ドキ  
ドキ

「オレ……いつもみんなから、オトコオンナとか言われてバカにされてるけど  
お前だけはオレのこと、わかってくれてるよな……」

「だ、だからな……そんなお前のこと……  
や、やっぱなんでもないっ……」



自分は男だと言い張るリオも、心は乙女だと僕は気づいていた。  
リオも僕のことを、男として意識しているのは薄々感じていたし、  
いつか告白したいと思っていた。



男と思い込んでいたリオを告白したりすると、ショックを受けて  
いままでの関係が壊れてしまうかもしれない。

だから急ぐことなくゆっくり、関係を深めていこうと思ってたんだ。

だが、そんなある日、僕達の前にチャライ転校生が現れた。

「ねえ、君マジ可愛いくな？」

「か、可愛い……う……？！オレは男だ！可愛くなんかない！」

「男？その冗談、マジうけるんだけど(笑)  
お前気に入ったわ！」



A woman with short brown hair and large breasts is standing in a classroom. She is wearing a white short-sleeved button-down shirt and dark blue shorts. She has her arms crossed and is looking towards the viewer with a slight smile. In the background, there are rows of wooden desks and chairs, and a dark silhouette of a person is visible on the left side of the frame.

「俺、転校してきたばっかで、友達いないんだわ」

「俺と友達になってくれない?」

「もちろんいいぞ、オレも男友達が欲しかったんだ」

転校生は、転校早タリオに近づきあっさり友人となった。

ある日僕は、転校生がリオを値踏みするような目で見ていることに気づいた。そのことをリオに忠告しようとしたのだが……

「なあ……あのチャラ男転校生……なんか怪しくないか？  
なんか企んでそうなんだけど……」

「そうか？ 明るくていいやつそうじゃないか。  
人を見かけで判断するのは良くないぞ」

リオは、転校生を信頼しているようで、これ以上強く言えなかった……

そうこうしてるとうちに、夏休みになり  
僕は家族旅行で、夏休みの間、海外へ行くことになった。

「ふーん、海外かー……コウスケはいいなあ……」

「コウスケ、海外楽しんでこいよ、俺はリオと仲良くやってるわ」



僕がいない間に、転校生が変なことしないだろうか……

リオはああみえて純粹で、性の知識も恋愛の知識もないから騙されないか心配だけど……

ちよっと、考えすぎかな……

そして、僕は日本を旅立った……

くくっ……やっと邪魔者が消えたか……)

「なありオ、お前二人暮らしだよな？  
今日から夏休みだし、休みの間中、お前の家に泊まってもいいか？」

「な……っ！泊まるだつて……だけどそれは……」

「なに躊躇してんの？男同士の友達なら、  
家に泊まるなんてよくあることじゃん？」

「そうだな……男同士だし何も問題ないなつ！  
よし、俺の家に泊まりに来いよっ！」



# 夏休み1日目

「これが、お前の部屋か……」

「お、おい……あまりジロジロ見るなよ……  
恥ずかしいだろ」

(男を部屋に入れるなんて初めてだ……)



「よし、突然だけど、マッサージするぞっ！」

「マ、マッサージっ…そんなのしなくていいからっ！」



「まだ、その言っな、男同士でマッサージするのはおもしろくないからっ！」

「それならいいから、マッサージっ…それならいいからっ！」

「それっ、マッサージのための準備しないかな」

「はっはー色気のないブラしてんな〜(笑)」

「ちよっぴん…何しやがねっ…」

ぷるんっ

ムキッ

むん  
むん

「何って服を脱がせたただけだろ？」

「服を着たままマッサージなんか出てないっつーの…」

「ま、まあそうかも知れないけど……」

「そっついでっつーのだ。早速、マッサージ始めねっ」



「おいっ……どこ触ってんだよっ……」

「どっ……足の根元だけどっ……」

はあ……♡

ん……♡

クリ♡  
クリ♡

「んっ……はっ……♡  
根本というより……そこは……あっ♡」

「なんかクリクリしたものがあつぞっ……うん、これは凝ってるなあ……  
入念にマッサージしてやんよっ……」

「バカっ……おまつ……おまつ……」

そんな所、マッサージしなくていいからあ……♡「♡」

（くっ……スパッツが湿ってきたな……）

あッ♡

んっ♡

ビクッ♡

ビクッ♡

おっ♡

んっ♡  
んっ♡

「ああっ……それ以上やると……だめえっ……♡  
ホントにやばいからあ……♡」

「ふああ……っ……♡だめえっ……あんあ……っ……♡  
んあ……っ……あああ……♡」

プツンアアアアアアアアツッ……

「うおっ！ すごえスパッツびしょ濡れ(笑)」  
(これは軽くイッたな)

お……♡

ゴクッ

ゴクッ

ヒクヒク

ふんふん

「もうやめろお……」  
これ以上やると部屋追いつすからなッ……

(ちっ……これ以上やると警戒されるな……  
しかたない……今日はじつまで……しておくか……)

「ふう、今日は疲れたな……」

「オレ、風呂に行ってくる……」

（くっく……次はあの作戦といくか……）



「バカっ！なんで風呂に堂々と入ってきてるんだよっ！」

「知らないのか？」

男友達は一緒に風呂に入って、親交を温めるんだぞ。

裸の付き合いと言っやつ、聞いたことぶらぶらあるっしょん。」



「そ、そうだな……俺は男だっ！」

男同士風呂に入っても何も問題ない！」

「それじゃ早速、身体洗ってやんよ」

(うおおおお、リオの生乳やわらけえ……)

「あッーああんッー！」

「お、おいッー！どこ触ってるんだよッー！」

んっ♡

「胸を洗ってんだけど？」

「男同士だし問題ないだろ？」

「お、おう……そうだな……問題ない……！」

尻♡

あーん♡

んっ♡



「はふっ……あっ……はあ……」  
「あッ……あっ、やっ、はあんっ……」

「なんだ……胸を洗われると……」  
「自然に声が出てしまうっ……っ……」

あッ♡

ふあッ♡

「可愛い声出してんぞっ……」  
「そんなに気持ちいいのっ……」

「バカっ！俺は男だっ！胸を洗われるだけで  
気持ち良くなるはずがないっ……」

アッ♡

あッ♡

あッ♡

あッ♡

「そっから気持ちよくないのから  
そんじゃ、気持ちよくなるようにもっと強く洗ってやんよ」

「ふあっ…そんなに強く揉んだら……  
はあんっ…んあっ……激しすぎい……っ♡♡」

あ♡♡

(リオのおっぱい、最高っ!!  
揉む手がとまんねえぜ!)

ふあ♡♡

「やあっ……ダメえっ!!  
もう十分気持ちいいからあ……っ♡♡  
もういいっ!洗うの終わりだあっ!」

尻

あ♡♡

あ♡♡



「そっか、残念だな、  
それじゃ最後の仕上げをして終わるぞっー」  
「さ、最後の仕上げ……っそれじゃ、頼む」





あ、♡

ん♡

もみ  
もみ

ちゅお  
ちゅお

ちゅお...ちゅお...ちゅお...ちゅお...ちゅお...ちゅお...ちゅお...ちゅお...ちゅお...ちゅお...

(〜えめいしほひくひん)

「ああん...♡♡

おいっ...何やってんだよっ...

「何して、胸を口で洗ってるんだけど？」

「...く、く、口で洗っちゃつなってるわけ無いだろっ...ばかあっ！」

「男友達同士では、こうやって洗うのが  
当たり前なんだけどなあっ」

「そ、そんなわけ……あはっ♡ふああ……っ♡」

ちゅぷっ…ちゅぷっ…ちゅぷっ…

「ああっ…そんなに激しく吸われたらっ…  
なんか変なの来る……っ♡」



ちゅおっ  
ちゅおっ

もみ  
もみ



「今日も一緒に風呂はいるのか……」

「当然だろ、この前は俺がお前の身体洗ったから  
今日はお前が洗う番な、頼むわ」

「お、おう……わかった、どこを洗うんだ？」

「そんじゃ、胸でチンポを挟んで洗ってくれよ」

「む、胸でだと……わかった……」

(パイズリの意味もわかってないみたいだな……  
ここまでエロ知識ないとか……マジちよるい)(笑)



「はいこれどいのか……ん」

(い、これが本物のチンポ……でかすぎな……)

はあ♡

ん♡

ムン

ムン

ムン♡

ムン♡

「うおっ……すげえ乳圧っ……まじ気持ちいいっ……」



「お、おい、チンポがビクンビクンしてるよ、大丈夫なのか……っ」

「なんだっ、俺のじやっ配してへくれよのさ……」

「そ、そんなんじゃねえよっ！ただ気になっただけだっ！」

「心配するな、気持ちよくなったらじやっ配してビクンビクンするものなんだよ」

「き、気持ちいいのか……それなら良かった……」

ムビィ♡

はぁ♡

んっ♡

ムビィ

ムビィ

ムビィ♡





ジュジュウウウウウウウッー… ジュルッー… シュジュウウウッー…

「うわっーチンポがビクビク脈打って……  
白いネバネバしたのがいっぱい出る……」

んぎゅっ♡

「これが射精ってやつ。」

男同士こっぴやこっぴやして射精させることが友情の証っーわけ」

「そ、そうなのか、これでオレとお前の友情が  
また深まったな♡」

（じはっー簡単に騙されてやんのっ）

ビュルルルルルル



# 4 目 目

「今日もリオが洗ってくれよ」



「今日もオレが……!?!?わ、わかった……  
どこを洗えばいいんだ?」

「そうだな……それじゃ、チンポを口で洗ってくれ」

「口でっ……そんなこと友達同士でするわけ無いだろ!」

「マジで知らないのっ、仲のいい男友達は、  
お互いのチンポをしゃぶり合うんだぞ?」

ドキドキ

「なっ……そ、そうなのか……わかった、しゃぶってやるぬ……」

「うはっ、相変わらずちよれえ(笑)」



「じゅじゅか……ふんっ……ンゲミ……」

「おお……ういじゃん……初めはじゅまうんじゅねっ……  
もっと大きな音を立てて激しく吸ってよ」

「わ、わかった……んっ……じゅん……  
じゅぶぶ……じゅぼぼ……」

んっ♡  
じゅんっ

チンポ

「ういっ……ちゅっ……」

「これやばいわ……マジ気持ちいい……」

(チンポがビクビク脈打ってる……  
そんなに「レ」が気持ちいいのか……っ)

ちゅっ





ドジュジュクッービュルルウウウッー！ ビュルルッー！

「んぐっ……んんっー♡」

(おける……口の中で大量の精液が……  
すごく臭い……だけど……)

んぐっ♡

びゅるっ

びゅるっ

ゴク

ゴク



「管の中に残ってるザーメンもしっかり吸い出せよ」

「ちゅっ、ちゅー、んぐっ……んぐっ……ぶはめ……♡」

「じゅんぐっはじめてザーメン飲んだ感想は？」

「んぐっんぐっ」

「ちゅー♡」

「ちゅ♡」

「苦いけど……癖になる味かも……♡」

「はっはーそっかー飲みたければ、」

「これからいくらでも飲ませてやんよー」

「なあ……今日は一緒に風呂入らないのか？」

「なんだ？一緒に入って欲しいのか？リオはスケベだな。」

「そんな訳あるか？！馬鹿っ！もういいっ！一人で入るっ！」

「くっ……たまには焦らすことも必要だろうっ……」



はあ

はあ

コソコソ

「はあ……はあ……くそっ、  
オレの体、なんか変だ……」  
「……最近毎日身体いじられたせいで……  
体がうずいて仕方がない……」

くちゅくちゅ

くちゅくちゅ



はあ

はあ

「転校生のチンポのことを考えること  
乳首とクリトリスがこんなに固くなって……」

コリコリ

「オレ……コウスケのことが  
好きだったはずなのに……」  
「思い浮かんでくるのは  
転校生のチンポばっか……」

ぐちゃぐちゃ

ぐちゃぐちゃ





はぁ♡♡

イク♡♡

「あん♡やばい、なにか来ちゃう♡  
このままだとイッちゃう♡」

「もうダメ……♡……♡……♡」

コリコリ

「あん♡……はぁ♡♡  
気持ちよすぎて手が止まらない……♡」

♡♡♡

♡♡♡





「なんか顔が赤いぞ、なにかあったのか？」

「な、なんでもねえよっ!」



(オナニーしてたのバレバレなんだよ……  
こっちの部屋までアンアン声が聞こえてたし……)

(くっく……女としての本能が目覚め始めているようだな)

# 6 目

「今日も体洗うんだろ……っ？体洗わせてやるよ……  
本当は嫌だけど仕方なくだからな……っ！」

（くそっ！毎日エロい体見せつけやがって……っ！……  
マジたまんねっ！もう我慢の限界だわっ！）

「なあリオ……今日は特別な友情の確かめ方を教えてやんよっ！」

「と、特別……っ？」



「お、おいっ！何しやがるっ！チンポを俺の股にこすり付けるなあっ！」

「リオの身体がエロすぎて、もう抑えきれないわっ！  
チンポ入れるぞっ！これも男同士の友情の証だっ！」

「ふ、ふざけるなっ！これが友情の証なわけ無いだろっ！」

「チンポをオマンコに入れるのは恋人同士のすることだっ！  
いくらオレがバカでも、それぐらい知ってるぞっ！」

「うっせーよ！リオの身体がエロいからわりーんだよっ！  
いつもデカ乳プルンプルンさせやがって……っ！もう我慢出来ねえんだわ！」

すり♡  
すり♡

「ふあ……いい加減にやめっ……やめっ……」

「おっ・リオのマン」すげーぬるぬる(笑)  
もうチンポ受け入れる準備完了してるじゃん

「そ、それはお前がスリスリするからあ……」

「そんじゃ、チンポ入れちゃいまーすっ」

「ちよっ……待てっ……やめろおおおっ……」

はア♡

ん♡

すり♡

すり♡

ぬちゅ

ぬちゅ

「んっあああああ——ッ！  
ほ、ホントに挿れやがった……っ！」

「誰が挿れていいと言ったっ！抜けど！  
今すぐチンポ抜けど！」

あッ！

(処女はコウスケにあげたかったのに……)

「やっぱり処女だったみたいだなっ！  
リオの処女マンコゲットっ！」

ズッ！



「いつもメスの匂いプンプンさせやがって……  
ずっとリオのマン」にぶち込みたいと思ってたんだよー！」

「そ、そんな……男友達だと思ってたのに……  
そんなこと思ってたなんて……！」

んっ♡  
んっ♡

プルッ

プルッ

「腰を動かすたびに  
デカイおっぱいプルプル揺らしやがって……オラッ……！」

ズクッ

ズクッ

ズクッ

「はあああっ！おっぱい揉むなあっ！」

「おっぱい揉まれながらガンガン突かれるとおかしくなっちゃうからあ……っ！」

「やめろっ……あっ、あああっ、あんっ、ああっ！♡」

あっ♡

あっ♡

もみ

もみ

「はははっ！アマンアマン声が出てるぞん  
お前もそんな可愛い声出せるんだな」

「ち、ちがっ……っ……これはなにかの間違いだあ……っ……ああんっ……♡」

びしょ

びしょ

ズク

「あっ、あんっー!♡……あっ、ああんっー!♡  
お願いだ……もう終わってくれ……っー!」

「そんなに言うのなら、膣内に射精して終わってやんよっー!」

「ち、膣内はやめろっー!赤ちゃん出来るからあ……っー!」

あッ♡

あんッ♡

もみ

もみ

「そんなこと言っちゃってさあ……  
お前のオマンコ、精液欲しがって  
キュンキュンチンポ締め付けてんだけど?」

「嘘だっー!そんなわけないっー!

「あっ、ああんっー!はっ、ああんっ、ああんっ……っー!♡」

ズク

ズク

ズク



「くっ……気持ちよすぎてもう無理だわっ！  
初物オマンコの膣内に思いっきり濃厚ザーメン出すぞっ！」

（さっきよりチンポが大きく膨らんでっ……  
本気でオレに中出しする気なんだ……）

「オラツ出すぞ！ザーメン受け入れる準備しやがれっ！」

「ダメだっ！膣内は本当にダメだっ！  
抜けっ！チンポ抜けええっ！」

あッ♡

あんッ♡

もみ

もみ

ジュー

ジュー

ズグ







「オレの膣内……精液でいっぱい……  
だめだって言ったのに……♡」

はあ

はあ

「バカッ！膣内に出すなって言っただろ……！  
絶対に許さないからなっ♡」

（コウスケ、ゴメン、オレ、転校生に中出しされちゃった……）

たふい

たふい



「リオがエロすぎて、まだまだ俺のチンポがおさまんねえわっ！  
もう一発やるぞっ！」

「えっ！嘘だろ……まだやるのかよっ！」

あっ♡  
ザっ♡

「お、オレは男なんだ……もうやめてくれ……」

「何が男だよっ！」

「こんなエロい尻した男がいるわけ無いじゃんっ！」

「んああっ！♡そんな後ろからガンガン突くなあ！♡」

（こいつのチンポ……）

オレの気持ちいい所ばかり突いてきやがる……♡（♡）

ズッ

ズッ

ズッ



「あああっ……ああ……あぁ……  
はぁ……あんっ……あぁ……♡

(クンっ……嫌なはずなのに……  
なにか熱いものがこみ上げて……)

あ  
ん  
っ

あ  
ん  
っ

「オマン」きゅんきゅんわはせせせ……  
イキそうになっ……の……っ……

「違っっ……そんなことない……あぁ♡

ズ  
ク  
ン

ズ  
ク  
ン

ズ  
ク  
ン





「ふああ……♡チンポでガンガン奥突かれて  
イッちゃったよお……♡オレ、男なのにい……♡」

「はっはー！イッちゃった？」

「すげえ、体がビクンビクンしちゃってるよ……  
そんなにチンポが気持ちよかった？」

あッ♡

ひんッ♡

「く、くそお……お、オレは男だ……んんっ、あんっ♡  
こんなの気持ちよくない……っ！ああん……っ♡」

（本当は気持ちよかった……♡  
だけど絶対に言葉に出しちゃダメだ……  
メスになっちゃう……♡）



「まだ素直になれないみたいだな……お仕置きだつ！  
もう一発膣内に出して女にしてやるぜっ！」

「ま、まてっ！だから膣内はダメって……！」

らぶっ♡

びんっ♡

「そんなわがまま言うなつての！  
メスはこうやって素直に精液を受け入れるもんなんだよっ！  
おらっ！出すぞっ！」

「そんな！これ以上膣内に出したら  
本当に赤ちゃん出来るからあ……ッ♡」

っ♡

っ♡

っ♡

っ♡

っ♡

「ジュジュジュジュ……ジュジュジュジュ……」

「ジュジュジュジュ……ジュジュジュジュ……ジュジュジュジュ……ジュジュジュジュ……」

ジュジュ

あーっ♡あーっ♡あーっ♡

ジュジュ

「はあ……はあ……オレのおまんこ……♡  
中出しされてイッちゃったのおお……なんでえ……♡」

「ああ……また膣内に出されちゃった……♡  
膣内はダメって言うのなの……絶対やばいよあ……♡」

「ふん……このオマンこは……  
「オマンこ」なら一日中ハメても飽きねえわ……」

ジュジュ

ジュジュ

「うおおっ…リオの身体ヒロすぎっ…  
まだやれるわっ…」

うめっ♡

んめっ♡

「さっきイッたばかりだからあ……♡  
そんなに激しくしゃちゃだめえ……♡」

「そんなにズンズン突かれたらあ……♡  
女になっちゃうのおおお……っ……♡」

ズン  
ズン  
ズン

ズン  
ズン  
ズン





(オレ……さっきからイキッばなし……  
もう何回イッたか覚えてない……)

びびり♡

びびり

びびり

びびり

(チンポで突かれるたび  
自分がメスだということを、思い知らされてしまう……)

(やっぱオレ……メスだったんだ……)

ズン  
ズン  
ズン

ズン

ズン  
ズン



「そろそろ素直になつたらどうなんだろう？」  
チンポ気持ちいいんだろ？」

(ああ……もうだめだ……快楽に逆らえない……)

「チンポ……気持ちいいのお……♡」

「極太オチンポっ！気持ちよすぎなのおお♡  
さっきからイキッばなしなのおおお♡」

びびっ♡

びびっ♡

びびっ♡

びびっ♡

ズン

ズン

ズン

ズン

ズン

ズン

「はっはっはっ！ やつと素直になったかつ！  
今のお前は可愛いメスだぞっ！」

「あはあっ♥ あひっ♥ 極太オチンポでズポズポ奥を突かれて、  
メスになっちゃったよおお♥」

「す、すげえ……素直になった途端、締め付けきつくなってたぞ……  
どんだけ俺のチンポ好きなんだよ……」

あひっ♥

あひっ♥

あひっ♥

あひっ♥

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ





「ああ、もう限界だわ……どっすんだ？早く決めてよ！」

「わ、わかった、出せっ……♡  
膣内にドリュドリュ精液出せよっ♡」

（膣内射精ダメなのに……自分から受け入れてしまった……  
オレ……チンポに勝てなかった……♡）

びびっ♡

びびっ♡

びびっ♡

びびっ♡

ズンッ  
ズンッ  
ズンッ

ズンッ

ズンッ  
ズンッ  
ズンッ









「はあ……はあ……♡  
何発も膣内に出しやがって……♡」

「わりいわりい……」

「リオがエロすぎて我慢できなかったわ(笑)」

「こんなに膣内に出したら

赤ちゃん出来ちゃうだろう……どうすんだよ……♡」

はあ♡

はあ♡

「ちっ……しゃあねえな……」

「赤ちゃん出来たら責任とってやんよ……」

(嘘だけど)(笑)

「せ、責任とかそいつ問題じゃ……」

ん♡

ん♡

コポ…

コポ…

おんおん…

「あ、そういういえば、このセックスの様子、隠しカメラで撮ってるんだったわー!」

「この動画どうしようかな?」  
「ウスケに送ろうかな?」

「やめろっ!」ウスケに送るのだけはやめてくれっ!」

はあ♡

はあ♡

「送られなくなかったら……わかるよな?」  
「夏休み中毎日ハメまくるぞよっ!」

「……わ、わかった……!」

ん♡

ん♡

コポ…

コポ…

おっおっ。

長かった夏休みもようやく終わり、僕は日本に帰ってきた。  
リオは大丈夫かなあ……



なんだこれは……ポストに謎のDVDが入ってる……

嫌な予感がするが、何故か見なきゃいけないような気がして  
再生することにした……



□DVD

「あっ、そうそう、これ動画撮ってるんだわ

「コウスケになにか伝えたいメッセージあるっ」

「コウスケごめん……オレ……

こいつのチンポにズコバコ突かれて、

女にされちゃった……♡」

あゝ♡

あゝ♡

ズルん

ズルん

ズルッ

ズルッ

ぬちゅ

ぬちゅ

「オレ……もうこいつのチンポなしじゃ生きていけない……  
もうコウスケに合わせる顔がないよお……♡」

「っわけなんだわ！コウスケわりいな！

リオのドスケベボディは俺のもんだわ！」





DVD

僕の知っているリオはもう戻ってこないんだ……  
どうしてこんなふうなの……

おわり



「おおお……やっぱりお前のマン」すげえわ……  
俺のチンポに愛おしそうに絡みついてきやがる……」  
「当然だろ、だってお前のチンポ大好きなんだもん♡」





「オレの膣内……精液でいっぱい……  
だめだつて言ったのに……♡」

はあ  
はあ

「バカッ！膣内に出すなって言っただろ……！  
絶対に許さないからなっ♡」

（コウスケ、ゴメン、オレ、転校生に中出しされちゃった……）





